

書評

『先端技術が応える！中高年の目の悩み』

—集英社新書—

京都府立医科大学大学院医学研究科視覚機能再生外科学 横井則彦 著

横井 則彦（昭和59年卒）

視力や見え方など，“見る”ことに関わる「視機能異常」と、ゴロゴロする、乾く、涙がでるなどの「目の不快感」。大きく二つに分けることができる目の異常や病気だが、これまで研究・治療が進んできたのは視機能異常についてだった。しかし近年の眼科治療の急速な進歩によって、目の不快感の解消という治療の新たな流れができてきた。この分野は、高齢化社会において、より質の高い生活を営む上での必須アイテムとなっている。私の専門分野である涙の病気では新しい目薬や外科的治療が開発され、結膜弛緩症という疾患で生じる眼の不快感は、手術で解消できることがわかってきた。

この分野への関心度の高さを反映して、去年はメディアとの接点も多く、TVでも取り上げていただいた。おかげで、全国から涙の病気の患者さんがやってくる、外来が4ヶ月以上も大変なことになった。電話に、手紙に、メールに、自分に通じる道はあらゆる手段を使って患者さんが訪れた。しかし、多くの症例に出会う機会を得たことで、新しい発見があり、とても良い勉強になった。

そんな中、一般書の新書の形で出版させていただける機会に恵まれた。そもそもお話をいただいたのが2年半前。その間、めまぐるしく進歩する眼科学に足並みをそろえておかねばならない。校正のデザインギリギリまで、出版社のみなさんに助けていただきながら、新しい情報を書き加えて、少なくとも自分の専門分野だけは、進歩に追従できてホッとした。現在の研究に携わることになった経緯とそこから導かれる最先端の知識を、一般人にも分かりやすいようにと書いたつもりである。また、眼科全般の最先端情報も満載である。しかし、専門用語も多く、難しく何度も読み返したという皆様のご意見も頂いている。医療に携わる諸先輩方には、もしかすると面白く読んでいただけるかもしれない。手前味噌でお恥ずかしいが目が気になりだしたら読んでおきたい中高年の目の指南書ということで、ご一読いただければ幸いです。

